



松柏中学校アーカイブ通信 第3号 2024年4月30日発行

きらめきタイム「アーカイブコース」責任者：山村 好克
(タイトルの背景は旧校舎)

地域の皆さん、松柏中関係者の方々からの

情報提供のお願い（エピソード編）

引き続き過去の松中関係の写真の提供をお願いします。1972年度以前の卒業生の方々の学級もしくは学年での集合写真です。もちろん、中学校生活の一コマを撮ったものも大歓迎です。ちなみに、先週までに、以下の年度の学年写真が集まりました。

1956(昭和31)年度、1961(昭和36)年度、1962(昭和37)年度、1964(昭和39)年度、
1972(昭和47)年度



今回のお願いするのは、「文章」です。市内の小中学校で発行された「閉校記念誌」や「〇〇周年記念誌」等に目を通すと、写真に加えて、「エピソード」が盛り込まれている箇所が目に残り、ついつい読み込んでしまいます。年代ごとに卒業生を代表して、やや長めの文章を記した形式もあります（これはこれで、今後の「松柏中閉校記念誌」の紙面に盛り込まれるかもしれない）が、ちょっとした「エピソード」を散りばめていくのもいいなあと考えています。例えば、「真穴中閉校記念誌」には次のようなエピソードが紹介されていました。「修学旅行で木刀を購入した人がいたなあ。海遊館で入場を止められる。」といった具合です。怖かった先生の思い出も。「英語のA先生の授業は厳しかったが、おかげで英検の成績は、学校全体で好成績だった。」等。

昨年、総合的な学習の時間「きらめきタイム」のアーカイブコースでも、生徒の保護者を対象にして、情報提供を募集しました。部活動や運動会の様子、少年式の記念行事等について、情報を集めることができました。そして、情報をまとめた成果を文化祭で報告することができました。

今回は大々的に情報を収集していきたいと考えています。生徒の保護者世代だけでなく、さまざまな世代の方の松柏中情報です。基本的にどんな思い出・エピソードでもかまいませんが、今号と次号で、いくつか「テーマ」を設定させていただきます。この通信の裏面を御覧ください。詳細を記しています。

【写真上：旧校舎時代最後の年の職員室の様子です。1979年です。横顔が大きく写っているのは、美術の菊池祥裕先生です。30歳頃でしょう。】

随時紹介 【松柏中学校の卒業生紹介】 第3回

菊池利和（一としかず）さん（1963年度卒業生・上柏出身）

関西のデザイン専門学校を卒業した後、松山市のデザイン会社に2年間勤務。ポスターや新聞折込チラシのグラフィックデザインやテレビの企画制作の業務に携わる。その後、八幡浜に戻り、現在の場所で、デザインスタジオKAC（ケー・エー・シー）を創業。グラフィックデザインの仕事とは別に、篆刻（てんこく）や版画をベースにした作品でも評判に。大法寺や市内各地の風景を題材にした版画は、絵ハガキとして販売され、好評を得ている。（「みなと」等で発売中）この写真は4月に八幡浜美術館で開かれた「菊池十四一 版画・板刻展」で、石田梅岩をバックに山村が撮影したもの。「石田梅岩をバックになんて、この期間中で、先生が二人目です。」と言われた。ちなみに仕事をされるときの名前は「菊池十四一」。親しみを込めて「としさん」と呼ばれている。印刷会社・豊予社の先代社長：菊池住幸さんの弟さんになる。



★ アーカイブ通信「温故知新」は、バックナンバーを含め、全て松柏中学校ホームページから「松柏アーカイブ通信」に入ると、PDFファイルでカラー印刷が可能になりました。

